

# 子ども医療費支給条例を改正 中学生の通院医療費

## 3分の2を助成

これまで、中学生の医療費は、入院に限り自己負担額の全額が助成されていましたが、今回の改正により、通院に対する自己負担額の3分の2助成が追加されました。

### 討論(要旨)

政が動いたのではない。将来のあま市を支える子どもたちは宝物である。力を合わせて子どもたちを守っていかう。

完全無料化への拡大はいま一步である。まずはこの条例を全会一致で可決し、もう一步の前進を求める。

### 主な質疑

問 助成に要する費用の想定は。

市民生活部長 2500万円から3000万円を想定している。

問 財源は確保できたのか。

市民生活部長 平成25年度の子ども医療費予算で2500万円を減額補正できた。この状況であれ

ば、3分の2助成はできると考えた。

問 全額助成はできないのか。

市民生活部長 財政的に現在できる最大限の助成を検討した結果である。

問 3分の2を償還する

のではなく、窓口で3分の1を支払う方法(現物給付)にできないのか。

市民生活部長 現物給付

には医療機関との話し合いが必要である。平成27年度から現物給付にしていきたい。

問 PR方法は。

市民生活部長 中学校の始業式で案内のチラシを配布する。広報およびホームページにも掲載する。

### 【賛成討論】

加藤哲生 子供を安心して産み育てる環境づくりのために、子ども医療費制度を中学校卒業まで完全無料化に拡大すべきと質問を何度も取り上げてきた。

昨年の12月議会では、多くの方から中学校卒業までの入院、通院とも医療費完全無料化を求める請願が出された。6500人を超える署名もあった。

今回の改正は、完全無料ではなく3分の2助成であるが、市民の声で市

### 伊藤嘉規

子ども医療費の助成については、少子・高齢化時代における子育て支援の住民サービスとして、税金で手厚く拡充することに市民の皆さんの理解があり、財政的な裏づけがあるならば問題は無いと考えている。

本会議や委員会において、財源の確保や恒久的な施策としての継続について質問したところ、継続して執行していくため、鋭意努力する意向が確認できた。

真に市民の声に応えるべく、子ども医療費助成

### 採決結果

全員賛成により、原案のとおり可決。

制度の財源確保のため、制度のますますの拡充を目指し、自らを律し、身を削る覚悟でもって事に当たる所存である。

今後とも、子供たちの健全な育成を育み、ますます子育てしやすい環境を推進していただくことを要望する。

